
【テキスト中に現れる記号について】

《》：ルビ
(例) 筈《はず》です。

最初の創作集は「晩年」でした。昭和十一年に、砂子屋書房から出ました。初版は、五百部ぐらいだったでしょう。はっきり覚えていません。その次が「虚構の彷徨」で新潮社。それから、版画荘文庫の「二十世紀旗手」これは絶版になったようです。

しばらく休んで、一昨年あたりから多くなりました。紙の質も、悪くなりました。一昨年は、竹村書房から「愛と美について」砂子屋書房から「女生徒」女生徒は、ことしの五月に再版になりました。

昨年は、竹村書房から「皮膚と心」京都の人文書院から「思い出」河出書房から「女の決闘」が出ました。

ことしは、実業之日本社から「東京八景」が出ました。二、三日中に、文芸春秋社から「新ハムレット」が出る筈《はず》です。それから、すぐまた砂子屋書房から「晩年」の新版が出るそうです。つづいて筑摩書房から「千代女」が、高梨書店から「信天翁」が出る筈です。「信天翁」には、主として随筆を収録しました。七月までには、みんな出るでしょう。

少し休みたいと思います。私はことし三十三であります。女の子がひとりあります。

底本：「太宰治全集10」ちくま文庫、筑摩書房

1989（平成元）年6月27日第1刷発行

1998（平成10）年6月15日第4刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版太宰治全集」筑摩書房

1975（昭和50）年6月～1976（昭和51）年6月

初出：「日本学芸新聞」

1941（昭和16）年7月10日

入力：増山一光

校正：土屋隆

2006年1月13日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。